

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

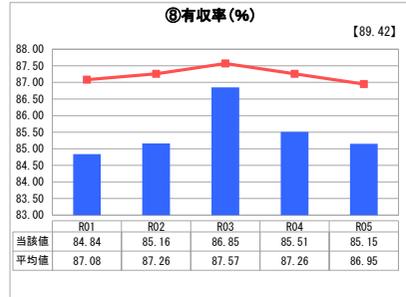
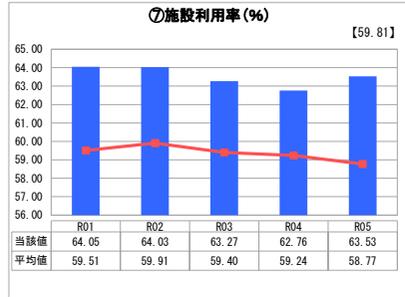
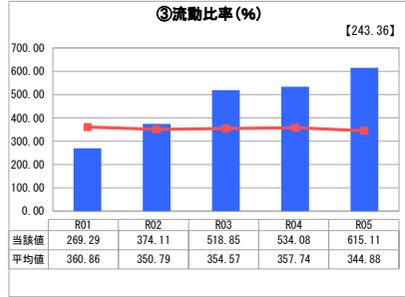
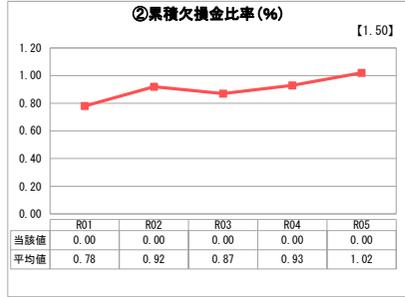
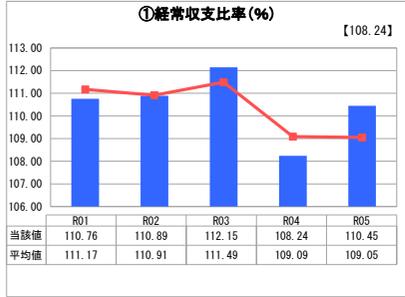
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	55.63	99.98	2,420	

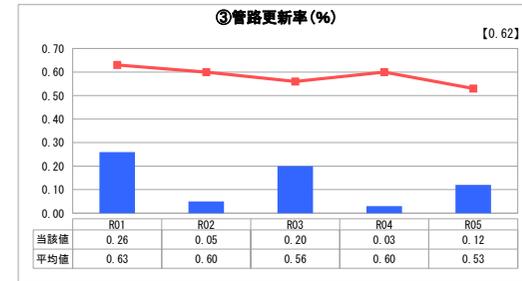
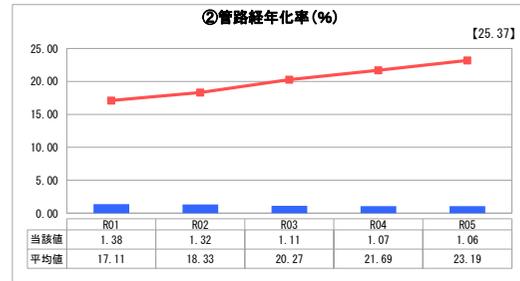
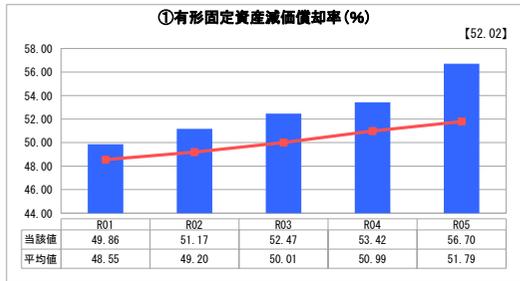
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,855	58.64	918.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,745	58.64	916.52

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
→指標が100%を上回り収支は黒字となっていますが、今後は増加する老朽化施設の更新のため多額の資金が必要となることから、健全経営に向けて費用削減や適切な給水収益の確保など、経営の合理化に努める必要があります。

②累積欠損比率  
→累積欠損金はありません。

③流動比率  
→指標は100%を上回っており、支払いに要する現金の確保が図られていますが、企業債残高は上昇傾向にあることから、企業債発行の抑制に努めます。

④企業債残高対給水収益比率  
→設備投資費用の増加に伴い数値の上昇傾向が続いていることから、将来的負担の軽減を図るため、今後は債務残高の圧縮に努める必要があります。

⑤料金回収率  
→基本料金免除(4ヶ月分)を行った影響もあり、指標が100%を下回りました。大幅な悪化は一時的なものと考えられますが、厳しい傾向は今後も継続していくことが見込まれるため、適切な給水収益の確保に努める必要があります。

⑥給水原価  
→類似団体平均値を下回っていますが、施設の更新に伴う減価償却費が増加傾向にあるため、今後上昇が見込まれます。

⑦施設利用率  
→類似団体、全国平均を上回っていますが、これは漏水等による配水量が多い傾向にあるため、施設利用率がここ数年、高めの数値になっています。将来的には、水需要に適した施設の更新などを行う必要があると考えられます。

⑧有収率  
→漏水や配水管工事等に伴う排泥作業の影響から、類似団体平均よりも低い数値になっています。今後、無収水量の要因となっている漏水を踏まえ、老朽管の更新や適切な維持管理を行い、漏水防止対策を講じる必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
→保有資産の耐用年数が近づいており、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な施設の更新が必要となります。

②管路経年化率  
→類似比較団体より低い水準ですが、管路の更新を継続して行い、施設の維持管理に努めていく必要があります。

③管路更新率  
→計画的に老朽管の更新事業を進めてきていますが、近年は老朽管更新対象地区が市街地や国県道になったために費用がかさみ、更新率が低下しています。

### 全体総括

経営状況は基本料金の免除(4ヶ月分)を行った影響により一時的に悪化している指標があるものの、現状は概ね健全な状態を保持しています。しかし、企業債残高対給水収益比率に見られるように、今後の経営は厳しくなっていくものと考えられるため、費用削減に努めます。また、令和6年度に料金改定を行います。引き続き適切な給水収益を確保するための検討が必要と考えられます。

また、浄配水場施設や管路については、老朽化が進んでいるため、経年化率等による優先順位に基づき、将来的な経営状況を鑑みつつ、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。